



# ガバナー月信 総括号

Rotary International District 2800 2023-2024

題字：野村百合子（山形北 RC）

国際ロータリー第 2800 地区 2023-2024 年度 | ガバナー 伊藤三之 | RI 会長 ゴードン R・マッキナリー





### 1 皆さま、一年間、本当にありがとうございました！

2023年7月13日(木)の白鷹RCから始まったガバナー公式訪問も、2024年3月28日(木)の山形北RCで49クラブ完結。各クラブの皆様、本当にお世話になりました。特に、私のわがままでお願いいたしました夜の合同例会への訪問と懇親会を企画していただいた酒田地区、鶴岡地区、米沢地区、南陽地区、そして尾花沢地区の皆様、ガバナー補佐の皆様にはご苦勞をおかけいたしました。ありがとうございました。

ガバナー公式訪問を通して、各クラブの皆様方のロータリーへの熱き想い、地域社会への愛着の深さ、クラブ会員同士の仲間意識の強さを実感させていただきました。

以下に、一年間の地区内での活動について、ほんの一部ですが振り返らせていただきますが、皆さま、一年間、ご協力本当にありがとうございました。

### 2 ロータリーの哲学は決して難しくはない！

一年間の地区内での活動を振り返る前に、私自身がどのような考え(ポリシー)で一年間の活動をしてきたかについて述べます。

それは、まさしく「ロータリーの目的」は何か、「ロータリーの基本哲学」は何か、ということなのです。

2024年6月23日(日)に開催された地区の職業奉仕セミナーの総括講評で私がお話ししたことを少しまとめてここに記します(参加者の多くの方からいい話だったと言われたので、調子に乗って)。

ロータリーの哲学、基本的な考え方は決して難しくはない。ロータリーの目的は、自分の可能な範囲で少しでも「世のため人のため」に尽くすこと、つまり「奉仕の理念」を実践することであり、そのことがひいては自分の人生を豊かにする方法である。「決議23-34」の基本的な考え方もここにある。「超我の奉仕」と「最も良く奉仕する者、最も多く報われる」との二つのモットーは全体として一つの主張、人生哲学を示したもので、上記の考え方と全く同じことを言っているにすぎない。そして、日々の生活において、はたしてその人生哲学(「奉仕の理念」)を実践できているかどうかをチェックするためのツール(基準)が「四つのテスト」である、と。

### 3 約束どおり、最上川を舟で下りました！

ロータリー奉仕デー「それぞれの最上川物語」にご参加、ご協力していただいた皆さま、本当にご苦勞様でした。

10月1日(日)、朝7時過ぎから8時前頃までの

50分間ほど、「それぞれの最上川物語」の第4グループ清掃会場である寒河江のふるさとパーク裏の地点から、第5グループ清掃会場である中山町の緑地公園までの約5キロ、私は、約束どおり、最上川を舟(ゴムボート)で下りました。

当日は、第4グループの寒河江会場、その後の第5グループの中山会場、さらには第3グループの東根会場や村山会場、第6グループの米沢会場でも、前日からの雨の影響もなく事業が実施できたのは奇跡的でした。

実は、記念事業であるロータリー奉仕デー「それぞれの最上川物語」の本当のねらいは、「街中(まちなか)や河川敷、海岸でゴミを拾ってきれいになるのは、街や川や海ばかりではない。一番きれいになるのは自分の心である」、つまり、利他の心にもとづく行動こそが自分の幸せにつながる、自分の人生を豊かにする道である、この事業を通じてそのことを実感して欲しかったのです。

### 4 地区大会での浅倉さやさんの歌は秀逸でした！

2023年11月11日(土)と12日(日)、メインイベントとも言うべき地区大会が開催されました。

会場であるやまぎん県民ホールに約900名の方にお集まりいただき、盛大に開催することができました。RI会長代理は帯広北RCの細川吉博PGでした。吉村県知事、佐藤市長にもおいでいただきご挨拶をいただきました。山形北RCと友好・姉妹関係にあるモンゴルフレールRC、大分県日田中央RC、台湾台北市西南区RCの方々も大勢駆けつけていただきました。同期ガバナーの北海道紋別港RCの鶴見誠一郎ガバナーの他、帯広北RC、釧路北RC、宮崎アカデミーRCからもご参加いただきました。「ロータリーの友」の野崎恭子編集長においていただいたのもちょっとびっくりしました。

大会2日目、11月12日午前中の式典の部ですが、幕開けはインターアクトの皆さんによる「インターアクトの歌」の合唱で始まり(不肖、私が指揮棒を振らせていただきました)。

式典の中で秀逸だったのが、浅倉さやさんのミニコンサートでした。

記念事業「それぞれの最上川物語」との関連で、「最上川舟唄」のアカベラ独唱で始まり、「ヤナト田植歌ーかみなぎー」、「生きる」、「東京」、「童神ーヤマトグチー」の4曲をご披露いただきました。

いずれの曲も、希望を失わないことの大切さ、前を向いて生きることの尊さ、そして何よりも、他人を思いやること、手を差し伸べることでこそ自分が生きている意味があるということ、切々と歌い上げているのです。

それは、ロータリー哲学の核心そのものであると私は思うところがあり、1年以上前から、朝倉さやさんにこの4曲をメッセージコンサートとして歌って欲しいとお願いしてきたのです。

朝倉さやさんの歌を通じて、ロータリー哲学の核心とは何かを伝えたかったのです。朝倉さやさんの歌は皆さまの心に響いたでしょうか？

## 5 ローターアクト全国研修会も無事終了しました！

2024年3月23日(土)から24日(日)まで、山形テルサとホテルメトロポリタン山形にて「第36回全国ローターアクト研修会 山形大会」が開催されました。毎年この全国大会が開催されますが、もちろん山形では初めての経験でした。

当初、ローターアクター及び及びロータリアンで合計400名の登録人数を目標にしていたのですが、実際には約300名のローターアクター、約150名のロータリアン、合計450名以上の方々にご参加いただきました。

鈴木一作PGの「ローターアクトの可能性」と題する基調講演、「国際交流」をテーマとしたパネルディスカッション、ロータリアンでもある大類隼人医師による「RACの現状と課題、支援を考える」と題する基調講演は、いずれもRACの今後の指針を考える上での数多くのインスピレーションをもたらすものでした。

ローターアクトクラブは、今、変革の真っ只中にあります。ローターアクトクラブの現状と課題、そして未来を、全国のロータリアン、ローターアクターと語り合うことができました。

## 6 青少年交換の全国大会も大成功でした！

2024年5月11日(土)から12日(日)にかけて、天童市内にて全国青少年交換研究会山形会議(青少年交換全国大会)が開催されました。10日(金)の夕方6時半、天童ホテルでのガバナーナイト(前夜祭)を皮切りに、12日(日)のお昼までの大会でした。

メインプログラムは、世界各国から日本を訪れている交換学生(インバウンド学生)によるスピーチコンテスト。世界各国から交換学生として来日したのは2023年8月。それから9ヶ月の間、若き民間親善大使は日本で何を見て、何を感じたのか、この期間で培った日本語を駆使して、日本での経験、日常生活での戸惑い、文化の違い、青少年交換事業の意義、ロータリーについて等々、率直に語っていただきました。

各地区の予選会を勝ち上がった24名の交換学生が3分間の持ち時間で、一生懸命のパフォーマンスでスピーチしてくれました。時々言葉に詰まって時間が空転したりすると、会場内の私たちがハラハラドキドキ。ロータリアン、交換学生、ROTEX(青少年交換のOB、OG)、青少年交換候補生など会場内の400名余りの参加者全員が、最初から最後まで本当に熱心に聞き入っていました。

私たち実行委員会のコンセプトは、「全ての場面で交換学生を主役に 全ての時間を交換学生と共に」ということでした。スピーチコンテストしかり、大懇親会での交換学生による国別パフォーマンスしかり。

このようなコンセプトのもと、天童市市民文化会館で行われたスピーチコンテスト以外は全て天童ホテル貸し切りで行いました。おかげで、前夜懇親会や大懇親会も浴衣姿でくつろぎながら、ゆったりと開催できましたし、2次会も3次会も全てホテル内で完結でき、「ロータリーを語ろう そして ロータ

リーを楽しもう」を実践できました。

## 7 おあとがよろしいようで！

2024年6月23日(日)の午後、地区職業奉仕委員会主催のセミナーが開催されました。テーマは、ずばり『決議23-34』とこれからのロータリー活動」です。

今回のセミナーの内容は、地区職業奉仕委員会の吉澤委員長のご報告記事にお任せいたしますが、ここでは、セミナー当日の開会の挨拶でも少し申し上げました、もう一つの「23-34」について触れてみます。

ロータリーで言うところの「23-34」とは、言うまでもなく、1923年に開催されたセントルイス国際大会の34号決議を指すわけです。

と言うことは、2023年は、決議「23-34」から丁度100年の節目ということになるわけです。

さて、私の年度(2023-2024)の国際ロータリー(RI)会長は、ゴードンR・マッキナリーさんです。スコットランドの方です。私は、自分の親分がスコットランドなんだし、スコッチウイスキーとかいう言葉もあるくらいで、私の年度中に、ウイスキーのことを少し調べてみたり、いろんなウイスキーを飲んでみようかなと思いました。ウイスキーに少し愛着が沸いたわけです。そして、ウイスキーのことを少し調べてみたら、びっくりすることが分かりました。

なんと、決議「23-34」が生まれた1923年というのは、日本のウイスキー元年とも言える年だったのです。日本で初めての本格的なウイスキー蒸溜所であるサントリーの山崎蒸溜所(大阪府三島郡島本町山崎)が創業したのがこの年なのです。当時のサントリー(当時は、「寿屋」)の社長は鳥井信治郎さん、蒸溜所の責任者は、あの「マッサン」で有名な竹鶴政孝さんです。

私は、余りの偶然に強い因縁を感じて、ロータリーのことと同じくらいに(いや、それ以上に)、ウイスキーのことを調べ始めました(飲み始めました)。さらに、サントリーの初めての商品、日本初の本格ウイスキー「サントリーウヰスキー(白札)」が発売されたのが1929年4月1日ということから、4月1日が「ジャパニーズウヰスキーの日」とされていることを知って、4月1日生まれの私としては、これ以上の因縁はないと確信し、これは、ウイスキーの検定試験を目指すしかないと固く心に決めて、日々、ウイスキーのことを学び、ウイスキーを毎日飲んでいるのです。

さてさて、「23」は分かったとして、「34」の方は？

先ほどの竹鶴政孝さん、当初の約束通り、10年間山崎蒸溜所で勤めた後、自分で理想のウイスキー造りを目指して独立。理想の地を北海道の余市に見つけ出し、日本で2番目のニッカウヰスキー(当初は、大日本果汁、後にニッカ)余市蒸溜所(北海道余市郡余市町)を創業しました。

その年は、なんと19「34」年。おあとがよろしいようで。

一年間ありがとうございました！

ガバナー月信 「ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう」 写真集

7月号



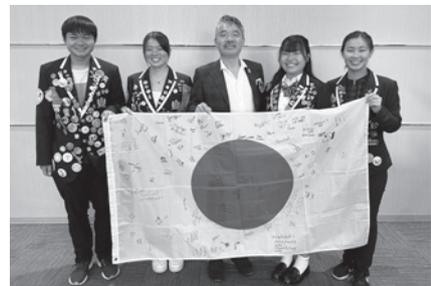
8月号



9月号



10月号



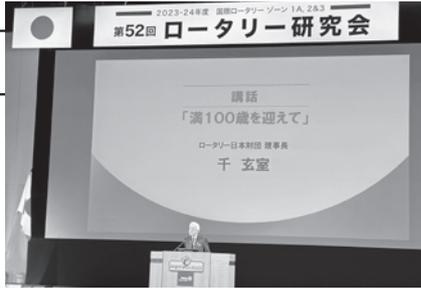
11月号



12月号



1月号



2月号



3月号



4月号



5月号



6月号



ガバナー月信 「ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう」写真集



ガバナーは語る

## モンゴル米山学友会創立10周年記念式典に参加して

- 1 『今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか』

米山奨学事業は、1952年、このような想いを持って、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した米山梅吉(1868-1946 東京RC)の功績を記念して、東京ロータリークラブで発足されました。この事業はやがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年に財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。

当地区においても、1969年、世話クラブが米沢ロータリークラブで台湾から山形大学に留学した奨学生から始まり、約55年の間に約290名もの奨学生を受け入れている、歴史のある事業です。

米山奨学事業は、その資金のすべてを日本のロータリアン一人ひとりの寄付に頼っています。決して、故米山梅吉の遺産を運用しているわけではないのです。皆さまの絶大なるご協力をお願いします。「与える文化」を実践しましょう。

- 2 米山奨学生のOB、OGを「米山学友」と言いますが、米山学友は、世界中に2万2千人を超え、学友らによる任意組織「米山学友会」も国内に33(我が地区にも「山形米山学友会」があります)、海外にも10(台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴル、マレーシア、ミャンマー、ベトナム、ベトナム南)を数えます。

- 3 さて、2024年7月20日と21日に、モンゴル米山学友会創立10周年記念式典がモンゴルのウランバートル市内ホテルで開催されました。

モンゴルと言えばジャンチブ・ガルバドラッハさん。皆さまご存じのように当地区の米山奨学生だった方で、ウランバートル市内に日本式学校の「新モンゴル学園」を創立された方です。その卒業生の数多くを日本を始めとする世界中の著名な大学に留学させ、いろんな分野で活躍する有為な人材を育成しております。



その功績を称え、日本の勲章も受章(日本とモンゴルの国際交流への貢献)されておりますし、今年6月のモンゴルの国会議員選挙では、教育界代表としてモンゴル与党の比例区に登録され見事当選し、モンゴルの国会議員となりました。

- 4 今回の10周年記念式典も本来はジャンチブさんが実行委員長予定だったところ、ジャンチブさんが国会議員に就任したことで、急遽、その立場をモンゴル米山学友会および地元のフレロータリークラブの後輩であるミンジンさんに譲りましたが、実質的には、全てがジャンチブさん主導の式典でした。

ジャンチブさんのご挨拶の中では、「日本に、山形に、そして何よりも世話クラブであった山形北ロータリークラブに感謝する」ということが強調されました。

日本からは、米山記念奨学会の小沢一彦名誉理事長(横須賀RC)、若林紀男理事長(大阪東RC)、田中久夫常務理事(高崎RC)など、総勢100名余りが参加しました。当地区からは山形北ロータリークラブから私を含めて12名、鈴木一作PGご夫妻の計14名が出席して参りました。

モンゴル米山学友会が創立10年を迎えたこと、5年前にはモンゴルで米山学友会世界大会を主催し大成功に終わったこと、モンゴル米山学友会主導でグローバル補助金活用も含めた数多くの奉仕プロジェクトを実践していること、6月の国会議員選挙でモンゴル米山学友会メンバーのうちジャンチブさんともう1人の方も国会議員に当選したことなどのご報告を受けました。

- 5 当地区からの参加者は、一日余裕を持ったスケジュールであったため、記念式典の翌日にはジャンチブさんとともにモンゴル大草原でのゲル宿泊体験、新モンゴル学園見学、さらには、モンゴル国会議事堂見学も行うことができ、大変充実したツアーとなりました。





ガバナーは語る

## 山形県内35市町村のラーメン

- 1 言うまでもなく、山形県内の市町村の数は現在35です。その内訳は、13市、19町、3村です。3村は、肘折温泉のある大蔵村、最上川舟下りのある戸沢村、そして、庭月観音のある(ないしは、オモウマイ店としてしょっちゅうテレビで紹介される「そば処ふくろう」のある)鮭川村です。
- 2 私は、毎年正月に必ず、「一年間の目標」を立てます。ある年は、「開脚180度」であったり、またある年は「ソムリエ試験合格」であったりしますが、これまでのところは、全て目標クリアしています(と言いますか、調査の結果、頑張れば一年間でクリアできそうな目標しか立てません)。さて、2023年の目標は？私がガバナーに就任する2023年の目標は、「県内35市町村全てで、それぞれ最低一店舗のラーメン屋でラーメンを食べる」というものでした。「ラーメンで、県内全ての市町村を制覇する」と言ってもいいかもしれません(って、そんな大げさなものではない気もしますが)。何でそんな目標になったのか。これには理由があります。それは、ガバナーとして、一年間は県内中を走り回らなければならないとすれば、少しでも楽しく県内中を駆け巡ろうということで、それぞれの市町村のラーメンを楽しもうと企画したのです。
- 3 結果、2023年の正月明けから6月上旬までの間で、35市町村全てで、ラーメン屋巡りを完了しました。ガバナーとしての私の年度が始まる2023年7月を前にして、その年の目標を達成してしまったのです。我ながら、あっぱれです。土日やゴールデンウィークの連休などは、連日、女房に付き合ってもらって、県内ぐるぐるとラーメンの旅を続けた成果です。
- 4 さてさて、私が味わったラーメン屋さんの相撲番付をします。もちろん、あくまで、私の趣味嗜好ですけど。まずは、横綱。東の横綱は山形市の「里味(さとみ)」の魚醤ラーメン、西の横綱は鶴岡市の「琴壺(こといち)」のチャーシュー麺です。山形市内には、栄屋分店のワンタン麺、いさご食堂の太ちじれ麺のラーメン、オーソドックスに美味しい玉子屋のワンタンメン、栄家本店の冷たいラーメン、長谷堂たけたの中華そば(わずか450円!)など、魅力的なお店も多いのですが、ここは、「里味」の魚醤ラーメンをお薦めします。鶴岡市内には、例の3時間大行列の「琴平荘」があり、そこで修行したお弟子さん方のラーメン店も何店舗かありますが、私のイチオシは「琴壺」のチャーシュー麺で、多分、好みだけど、「琴平荘」より・・・さて、次は大関です。東の大関は新庄市の「一茶庵支店」の鳥モツラーメンです。鳥モツラーメンは、新庄の名物ラーメンで、新庄市内、その近隣町村(戸沢村や鮭川村、最上町や真室川町)、さらには村山市や山形市にも鳥モツラーメンを看板にしているラーメン屋さんはいくつもありますが、私的には、ダントツで「一茶庵支店」が好きです。くせのない鳥モツ、醤油と鳥の風味を損なわないあっさりしたスープ、他の追随を許しません。西の大関は余目町の「たかはし」の背脂醤油ラーメン。地元の仲間に勧められて行ったのですが、つるつるモチモチの麺、くせのない柔らかなチャーシュー、そこに背脂チャッチャのコク、美味しい！引き続き、東の関脇は高畠町の「山喜(やまき)」の塩ラーメン。喜多方の人気ラーメン店「喜一」本店で修行した店主のお店。スープ、麺とも、これぞ絵に描いたような優等生的塩ラーメン。本当に美味しいですね。癒やされます。西の関脇は米沢市の「桂町さっぽろ」。米沢ラーメンの有名店がひしめく中、私イチオシはこの店のチャーシュー麺。旨みの強いスープ、細縮れ麺、柔らかく旨みの詰まったチャーシュー。何度でも食べたくなるラーメンです。

相撲番付も残り少なくなってきました。次は、小結です。

最後は、私の完全な個人的嗜好で選びます。東の小結は、私の出身地尾花沢市の「尾花屋(おばなや)」の中華そば。典型的なそば屋のラーメン。醤油の黒さがストレートに出たスープの色ながら、味はあっさり。(多分)ゆでた後に一回水でしめたストレート麺。あぁ、くせになるラーメンです。

西の小結は、天童市の「ラーメンショップ天童本店」のつけ麺。全国的なつけ麺ブームの中、三川町の「麺絆英(めんぱんひで)」のような本格的東池袋「大勝軒」的な店も多くなっている中、私がつけ麺でイチオシなのがここ。何でしょうね？酸っぱさが強いつけ汁ですかね？定期的に食べたくなるんですよ。最後に麺をわざと少し残して、スープを足してもらって、そこに麺を入れて、少しだけラーメン気分を味わうという、この小市民的な喜びがたまらないんですよ。ちなみに、ここのあっさりした餃子が、私は県内で一番好きな餃子です。

もちろん、以上の番付は私自身も相当悩みました。寒河江の「佐平治食堂」は？東根の「龍上海東根店」は？同じく東根の味噌ラーメンの「ひなた」は？山形の「め組」は？迷いに迷って、エイヤッ、と選んだわけです。

- 5 2023年7月から2024年6月までが本番なのに、その前に35市町村全制覇してどうする？とお思いかも知れませんが、そこは、本番の一年間を通して、さらにじっくりと35市町村の美味しいラーメン屋を探せたわけです。

2023年7月下旬に、ロータリークラブの公式訪問で酒田におじゃました際に、上林バスタガバナーが、「お昼ご飯は酒田の美味しい鰻屋とも思ったんだけど、伊藤くんが県内ラーメン屋巡りをしているという噂を聞いたんで、今日は、私が酒田で一番だと思うラーメン屋に招待するよ」と言ってお連れしていただいたのが、中華そば「大丸」。私は始めておじゃましたが、ここのチャーシューワンタン麺は、間違いなく美味しかったです。感動しました。感動しましたが、次回は、「美味しい鰻屋」でお願いします。

- 6 それでは今年2024年の目標は？

今年の目標は、何とウィスキー検定合格です。私はワインエキスパート(飲食業の方はワインソムリエの呼称)の資格を持っておりますが、今度はウィスキーいきます！

もちろん、マニアックにウィスキーを集めて飲んで学んで(?)います。今のところのお気に入り、国産では「厚岸(あつけし)」、輸入物なら「スプリングバンク」です。

またの報告をお楽しみに！

備考：この文章は、私が山形県弁護士会及び東北弁護士会連合会の会報の原稿として作成したものに若干加筆したものです。



里味



一茶庵支店



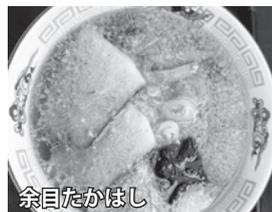
高島町山喜



尾花屋



零吉



余目たかはし



米沢桂町さっぽろ



天童ラーメンショップ

## 職業奉仕セミナー 開催報告

### 『決議23-34』とこれからのロータリー

地区職業奉仕委員会 委員長 吉澤 彰浩（米沢中央RC）

2024年6月23日(日)、『決議23-34』とこれからのロータリー』のテーマのもと、寒河江市ハートフルセンターにおいて、本年度と次年度の地区職業奉仕委員会合同での職業奉仕セミナーを開催しました。

ロータリー哲学のバイブルと言われる「決議23-34」から丁度100年の節目に、この決議の意味を再確認する機会となりました。対象者は、本年度及び次年度の地区内クラブ会長・幹事、クラブ職業奉仕担当者、またガバナー補佐。残りあと1週間で伊藤ガバナー年度終了にも関わらず、当日はRC56名・地区関係者31名の計87名の参加者で盛況での開催となりました。

二部構成でのセミナーとし、第一部は「決議23-34の本質とは？」と題し、地区職業奉仕アドバイザーの鈴木一作PG（寒河江RC）の基調講演を行いました。鈴木PGは、「決議23-34の意義」をパワーポイント資料に基づき一語一句丁寧に説明をされ、ロータリアン個人もロータリークラブも社会奉仕に関する方針に基づき行動することが明確化されたことにより、次の6つの意義があったと明示されました。

- 1 ロータリーの分裂の危機が回避されたこと
- 2 ロータリーの定義と奉仕理念が明示されたこと（奉仕理念を説明した公式文書は、決議23-34のみ）
- 3 ロータリークラブの定義と目的、クラブとロータリアンの義務、国際ロータリーの目的が明示されたこと
- 4 ロータリーの奉仕哲学は実践哲学であると明示されたこと
- 5 奉仕活動に対するクラブの自主決定権と義務が明示されたこと
- 6 何より重要な意義は、上記2～5が以後のロータリーの指針になったこと

と、この決議がロータリーにとって重要な指針になったインシデントであったと説明されました。

第二部では、参加者を6つの小グループに分け、『決議23-34』の意義とこれからのロータリー』という内容でディスカッションをしました。委員会で予め討議内容の設問を用意し、ガバナー補佐にファシリテートのご協力を得て討論をして頂きました。グループディスカッションの内容としては、基調講演の内容を踏まえ、「決議23-34」で明示されたロータリーの奉仕哲学は実践哲学であることを念頭に、今後のクラブ活動やロータリアンとしてどのように実践していくかの考え方や手法について自由闊達に討議して頂きました。委員会で用意した設問は下記3つになります。

- 1 決議23-34をどの程度知っていたか？グループで大まかな割合を把握して下さい。
- 2 本日の基調講演を聴き、印象に残ったことを三点くらい挙げて下さい
- 3 今後のクラブ活動やロータリアン個人としてどう実践していくか？

各ファシリテーターの発表では、ある程度想定していたものの、相当厳しい内容の討議報告となりました。決議23-34自体の認識を持っているメンバーは殆ど居ない状態からのディスカッションとなり、職業奉仕と社会奉仕の区別がつかない等、今後さらに学びの場所の設定が必要だと考えさせられました。但し、100年の節目の年にこうした機会を得られたことは地区にとっては前進だったと考えます。

委員会としては、ロータリーは利己と利他の調和を目的とするところの人生哲学であり、思想や行動を示す指針が100年前に確立されたことはクラブやロータリアンにとって有意義で画期的であったことであり、大事なことは、基本に立ち返る、本質的なものは何なのか？をロータリアン自分自身の心に問うことではないか？とディスカッションの部をまとめました。

## 2024年ロータリー国際大会(シンガポール)報告

地区ロータリー情報委員会 委員長 伊勢 博(東根RC)

2024年ロータリー国際大会は、友情・興奮・文化的つながりをテーマとしてシンガポールで開催されました。私が参加した期間は、5月24日(金)から5月29日(水)の6日間。

初日、国際大会の登録に行き驚いたのは、登録時に大会の予定表や資料をもらえると思いきや何もない。もらったのは、首からぶら下げる名札(バッジ)のみ。

よく見ると表にQRコードが印刷されており、裏面には自分が参加する予定が箇条書きで書いてあるのみで、期間中の詳細情報は全てスマホの専用アプリで確認するということでした。

私が出席したのは、開会本会議、第2回本会議、第3回本会議と毎日開催された自由参加の分科会です。本会議、分科会で特に印象に残ったのは、講演者のフレディ・アルマザン氏が語った日本の伝統技術「金継ぎ」からヒントを得た「壊れた過去を隠さず繋ぐことで新たな価値が生まれる」という話と「ロータリーはAIをどのように活用すべきか」をテーマにした分科会でした。

晩餐会や昼食会にも参加しましたが、いずれも1,000人規模の会場です。ちなみに、今回の国際大会の参加者は約14,600人(うち、日本人約2,500人)でした。

アメリカ、カナダ、台湾、香港、アフリカ、シンガポールなどの方々との情報交換できましたが、驚いたことに誰も名刺を持っていない。名刺交換の代わりに日本であまり馴染みのないSNS「WhatsApp」での友達申請でした。

総じて思ったことは、ペーパーレスが進んでいたことと、スマホ(アプリ)の活用でした。もっと沢山のことを紹介したいのですが My Rotary で報告が見れるので、ぜひご覧ください。



My Rotary掲載の  
報告ページQR



## RYLA 開催報告 テーマ『気づきそして感謝』

地区青少年奉仕委員会 RYLA委員長 渡部 晃 (余目RC)

2024年6月1日(土)、2日(日)に2800地区のRYLAを開催しました。会場は、寒河江市田代にある、学びの里TASSHO(旧田代小学校)です。参加者の内訳ですが、地区内25名の受講生、ロータリアン23名、地区外からは佐賀・長崎をエリアとする2740地区よりRYLA委員会委員5名も参加され総勢53名でした。

参考までにスケジュールを下記に記しておきます。

### 1日目

9:00	委員会集合
10:30	登録開始
11:00	開校式 伊藤ガバナー挨拶
11:20	研修① リーダー決め、グループ決め
12:20	昼食 グループ毎に自己紹介しながら
13:00	研修② DVD鑑賞 グループディスカッション
14:30	研修③ 鈴木一作PG講演 『偉い人より立派な人へ』
14:40	研修④⑤ 5年後のなりたい自分 夢・目標設定
16:10	研修⑥ 鈴木多鶴子様講演 『バースカフェ』
18:10	バーベキュー
20:00	親睦・懇親(風呂)
22:30	就寝

### 2日目

7:00	起床
7:15	ロータリアン朝食
7:45	受講生 朝食
9:00	研修⑦『まとめ』 グループ毎に ①各受講生の目標発表 ②各グループ代表者発表
10:45	研修⑧ 『未来へ』 鈴木一作PG
11:00	閉校式 研修のまとめ 受講生、ロータリアン 全員で感想発表
11:50	総括 伊藤ガバナー 閉会 矢口PG
12:00	昼食
12:30	解散

まずは初日。伊藤ガバナー、安孫子PG、鈴木PG、矢口PGは2日間の参加。芳賀ガバナーエレクトは第6グループIMのため2日目からの参加です。ご多用中のところご出席ありがとうございました。それで開校式です。受講生は当然ながら初顔合わせですからガチガチに緊張している様子です。受講生の大半は所属企業の社長や知り合いのロータリアンから「行ってこい」と言われ、嫌だったけど仕方なく参加した方々がほとんどの印象です。そんな中、遠藤研修リーダーの慣れた進行でスタートします。いきなり4名のリーダー決めの開始です。今回のRYLAのルールは、「じゃんけん・くじ」は禁止です。全てを自分で決断し行動をします。

当然リーダーも立候補者だけ受け付けます。受講生全員が戸惑った表情していますが開始後すぐに立候補で4名が決まりました。鈴木PG曰く、こんなに早くリーダーが決まるのは珍しいとのこと。リーダーが決まった後は、どのリーダーのもとで2日間過ごしたいか、自分自身でグループを選びます。私自身、RYLAは初めての参加ですがこのような研修のスタイルは初めてでしたので、新鮮で受講生やロータリアン全員が面白いと感じたのではないのでしょうか。決まったグループごとに自己紹介しながら昼食をとります。正直このスタートで緊張は解けた様子です。

午後からは『夢力』：居酒屋てっぺん大島啓介社長のDVDを鑑賞し、グループごとに感想を言い合います。その流れからの鈴木PGによる講演『偉い人より立派な人』です。

受講生は『リーダー』について学びます。これまでの自分の考えや意識の甘さを徹底的に追求する時間となりました。そして受講された人の心には絶対に響く言葉『神様からの贈り物』について考えます。

そして1日目最後の研修である『バースカフェ』は鈴木PG令夫人の鈴木多鶴子さんが講師

を務めます。ここでは授かった命、生まれるということの命の尊さを学びます。ご自身の経験を踏まえたお話は受講生だけでなく参加されたロータリアン全ての方々が共感し感極まり涙した様子でした。その後は『命』について感想や思いをリーダーが仕切りグループごとに語り合います。2740地区からのお土産、長崎福砂屋のカステラが最高のおやつとなり、更に盛り上がりました。

午後からビッチリと研修をした後は楽しいバーベキューです。バーベキューの準備は委員会メンバーと余目RCの協力者から行って頂きました。アウトドアのスペシャリストと本業が料理人という構成ですので地区内でも最強の布陣ではないでしょうか。まさに完璧な準備です。屋外でのバーベキューはコロナ禍を経て参加者全員が久々の開催となり時間が経つのも忘れるほど。アトラクションはグループ対抗の空き缶積み。賞品には焼肉用山形牛とガバナー持参のウイスキーです。

もちろん、頂戴した賞品はその場で焼いて食べ、ウイスキーも飲み干しました。時間の制限もあるため約2時間で撤収。そこでもチームワークが光ります。参加者全員で協力して片付けてくれました。その後は自由時間となります。風呂の中やベッドルームで夜な夜な語り合った受講生もいたようです。我々ロータリアンは即爆睡。

翌朝、朝食を済ませ宿泊した部屋の片づけです。午前の研修まで多少の時間があつたので体育館でバスケットをしたり前日に出された課題をしたりとリラックスして準備をします。

2日目の研修は、前日に出された課題について各グループで発表します。

目標を達成するために明日やること、1年後、3年後、5年後、そして将来の姿はどうなっているのか。受講生の純粋な気持ちが伝わりました。

最後に鈴木PGからのRYLAのまとめをしていただきました。この2日間で感じてほしかったことの答え合わせをして、話題になっている『神様からの贈り物』は受講生やロータリアン全ての方たちの心に響き共感するフレーズでした。そして遠藤研修リーダーよりサプライズ企画！ナント3年後に同窓会が予定されていたのです。すでに場所も予約してあるとのこと。3年後のストーリーまでも企画していたとは恐れ入りました。当然ながら受講生全員が絶対に集まろうと盛り上がっていました。

とうとう閉校式。受講生、参加したロータリアン全員が順番に感想を述べます。伊藤ガバナーに総括していただきました。本当に企画して良かった事業であったと心から思います。全国各地のRYLAを経験されたロータリアンや長崎・佐賀からの2740地区の皆様も大満足で全国トップクラスのRYLAであったと高い評価をして頂きました。

私は初めての委員長で、どうすれば良いか、どのように動けば開催できるのかなど全く分からず不安な日々を過ごしましたが、青少年奉仕委員会遠藤委員長の指導のもとお陰様で最高のRYLAを成し遂げました。これも参加してくれた受講生と協力してくれたロータリアン全員のお陰です。

全国でもトップクラスの2800地区のRYLAは来年以降も続きます。RYLAの良さを知るには、まずロータリアンの皆様からご参加いただいた方が話は早いかもしれません。ぜひ来年のRYLAを見に来てください。

私にとっての『神様からの贈り物』は2800地区のRYLAだったのかもしれませんが。素晴らしい『気づきと感謝』をありがとうございました。



## 「ロータリーの魅力を探ろう そして仲間を増やそう」 第6グループIMを終えて

第6グループ ガバナー補佐 佐藤 靖彦 (小国RC)

第6グループインターシティーミーティング(IM)が6月1日(土)長井市の「はぎ苑」を会場にホストクラブ長井中央RCのもとで、伊藤ガバナー年度のフィナーレを飾るよう、第2840地区パストガバナーの田中久夫氏(高崎RC)を講師にお迎えし、「ロータリーの魅力を探ろうそして仲間を増やそう」をテーマに開催されました。

私たち第6グループはA地区(米沢市、高畠町の5クラブ)とB地区(南陽市、長井市及び西置賜の7クラブ)の12クラブで構成されていますが、次年度ガバナー輩出のB地区は特に少人数のクラブが多く会員の増強が一番の課題です。伊藤年度スタート前に2回、田中先生の話聞いた長井中央RC橋本幹事と私で一回目クラブ協議会の際に「今年のIMは田中先生で行きましょう」と即決即断、その日のうちに伊藤ガバナーから田中先生の日程をとっていただき準備に取り掛かりました。

ガバナー補佐の役目もまともにできない私がIMの主催などできるのだろうかと不安もありましたが、「長井中央RCの17人の真のロータリアン」に前後左右、東西南北あらゆる場面で助けていただきました。今回の講演依頼は伊藤ガバナーから田中先生に確約頂きましたが、ホストクラブ沼沢会長、田中実行委員長、橋元幹事の3人が高崎まで挨拶に出向く「熱」の入れよう、開催までの期間が「本気でロータリーを語った」時間だったと振り返っています。特に「肝いり」の基調講演は90分フルスベックで田中先生の講話に耳を傾けていただき参加クラブの皆さんが「会員増強」の真髄に触れていただけたものと感じております。「志の同じ仲間」の裾野を広げて行くことに最大の意義があり次年度以降もグループの重点事業として取り組んでまいりたいと思いを新たにしたところです。クラブの例会もそうですが「外部のゲストがいる緊張感」があり、IMも地区内パストガバナーを講師にお迎えする形も取れますが、地区外から講師をお招きすることの緊張感をプラスしたほうが意味合いも出てくるのではないのでしょうか。いずれにせよロータリーの事を学びそして深め参加クラブの発展と成長の機会となるIMの開催を次年度以降開催予定ホストクラブに期待し基調講演を終了しました。

懇親会では、伊藤年度地区重点事業「それぞれの最上川物語」を締めくくるとよう地域の民謡チャンピオン井上千春様に「最上川舟唄」を披露していただき、芳賀康雄ガバナーエレクトの乾杯で開宴。けん玉の世界チャンピオンの技をご披露いただいた後、12クラブ対抗のけん玉大会をアトラクションに素敵な笑顔が多く見られる会となりました。

「人は人との出会いで磨かれてゆく」そんな事を実感し次年度米沢の地で再開することを約束し散会となりました。第6グループ12クラブの会長幹事の皆様に感謝。

無能なガバナー補佐を支えご協力いただいた長井中央クラブ17名の皆さんに感謝。  
そして伊藤ガバナーに感謝。



## 惺山高校インターアクトクラブ 活動視察報告

地区インターアクト委員会 委員長 枝松 祐子 (上山RC)

5月30日(木)、惺山高校インターアクトクラブ(山本絵里子理事長、松田栄子顧問、メンバー13名)の活動視察会が実施されました。

伊藤三之ガバナー、矢口信哉パストガバナー、林政俊第5グループガバナー補佐、吉田義尚第5グループガバナー補佐、枝松祐子地区インターアクト委員会委員長、スポンサークラブの與田貴博幹事(山形RC)をはじめ、白田真人会長(山形東RC)、高橋豊会長(山形イブニングRC)、古澤利治幹事(山形イブニングRC)の9名のロータリアンに参加頂きました。

3年生の蒲生大惺君の開会点鐘に始まり、インターアクトの歌を全員で斉唱しました。

その後、伊藤ガバナーの講話がありました。アメリカのシカゴでたった4人から始まったRCの理念や活動は多くの人々の共感を生み、「ほほえみをもて さしのべよ手を 世界を結ぼう」というIACの歌にあるように、今では世界120万人の会員を擁するまでに拡がりました。ロータリアンは、世界の“平和”というの最後は人の手がつくるものだと考えており、一人一人がその“平和の灯”を心に持ち次代へ繋いでいけるようロータリーはIACを立ち上げたのです。世界におけるIACは1963年に立ち上げられましたので、既に約61年もの歴史があります。惺山高校IACの前身は旧山本学園さらには旧竹田女子高時代の1978年(昭和53年)の創設ですので、県内でも名実共に歴史あるIACとなっています。IAC(インターナショナル・アクション)の名が体を表すように、皆様には国際的な活動、高い目標へ向けて活動を続けて頂きたいと思えます。皆様の活動の恩恵を受ける方々が豊かになるだけでなく、その気持ちと活動は他でもない自分自身を豊かにすることに繋がっていきます、以上が伊藤ガバナーの講話の骨子です。

その後、3年生の岸遼馬君が活動報告をしてくれました。一年生3名、三年生10名の計13名で活動をしている。特に力を入れている二つの活動について紹介してもらいました。ひとつめはGU・ユニクロが主催する「届けよう、服のチカラ」プロジェクトで、難民の子ども達に服を届ける活動です。二つ目はスポGOMIです。モンテディオ杯2024スポGOMIでは2位となり、今後はスポGOMIワールドカップ、スポGOMI甲子園へと出場し優勝を目指す力強く報告をしてくれました。

最後にインターアクターの皆さんより、「ふれあいの歌」に手話をのせて歌って頂き、笑顔で報告会を閉じさせて頂きました。

### 【校内活動】

- 校内外環境整備(校庭草取り・地域清掃)
- 手話コーラス「ふれあいの歌」
- モンゴル語学留学生との交流会
- GU・ユニクロ  
「届けよう、服のチカラ」プロジェクト」研修  
※GU・ユニクロへ143着の子ども服を送付
- 学園祭チャリティーバザー
- 霞城公園ゴミ拾い

### 【校外活動・地域ボランティア】

- スポGOMIワールドカップ 山形大会 in 鶴岡
- スポGOMI甲子園 山形県大会参加 第2位
- 城西夏祭り手伝い
- 第10回山形まるごとマラソン大会手伝い
- 「城西ウォークと避難カレー」参画
- 山形ロータリークラブ早朝清掃
- モンテディオ杯2024スポGOMI大会
- あしなが学生募金参加



## 九里学園高校インターアクトクラブ 活動視察報告

米沢ロータリークラブ 会長 豊野宏司

九里学園高等学校インターアクトクラブは、前理事長の九里茂三先生が米沢ロータリークラブに入会した際、ロータリーの精神が九里学園の校是である「礼」と「譲」に一致するという事で、59年前に設立されました。同校のJRC(青少年赤十字)クラブが活動の母体となり、それ以来生徒全員がインターアクトクラブメンバーとして活動しています。

主な活動として、米沢上杉ロータリークラブとの上杉御廟所の早朝清掃作業、こども食堂の開催を通じた地域との交流、地域奉仕活動への参加、JRCクラブの幼稚園を訪問してのボランティアなどがあります。

その中でも今日は、米沢市の花いっぱい運動の一環として、生徒たちによるプランターへの花植えを行いました。植えるだけでなく、きれいに育てることが大切ということ、伊藤ガバナーも生徒たちに声かけしてました。

九里学園インターアクトクラブのさらなる活躍を期待し、報告といたします。

### 生徒の感想 (3年4組 牧野ゆう奈さん)

- ・今回のガバナー訪問では、私たちインターアクトクラブが毎年行う活動の一つである花植えの活動を見ていただきました。私たちの普段の活動を見てもらう機会というのは初めての経験だったので少し緊張気味でしたが、ガバナーをはじめ皆さんが気さくに話しかけてくださり、私たちも楽しく活動することができました。また、ガバナーからはご自宅の花壇の写真をを見せていただいたり、花についての知識を教えていただきました。枯れさせないように、みんなで水やりを頑張りたいと思います。

## 第31回インターアクト年次大会を終えて

天童ロータリークラブ 青少年委員会 委員長 山口 勝康

6月7日(金)、山形ビッグウイングを会場に国際ロータリー第2800地区2023-2024年度第31回インターアクト年次大会が開催されました。当クラブがスポンサークラブとなっている創学館高等学校インターアクトクラブが主幹となり、地区内にある各校インターアクター約90名が参加しました。大会は午前中に各校の活動報告と質疑応答、午後からは講師の先生をお招きして講演とワークショップ(体験型のグループ学習)の2部構成で行われました。

今大会は「自分の魅力を知り、他者を愛する心を養う」をテーマに掲げ、BIJUKU認定講師である矢口祥子氏をお招きして「あなた『らしさ』が美しい～魅力を知って自己肯定感を高める」の演題で講演をしていただきました。昨今の日本の若者は自分の容姿に自信がなく、自己肯定感が下がっているとされており、コロナ禍でその傾向に拍車がかかっています。

今回のワークショップにて自分の容姿の良いところを他校の生徒に教えてもらうことで、生徒達もこれまで気づけなかった自分自身の魅力に気づくきっかけとなったようです。初めて会った人の容姿について話をすることは聞く方も話す方も恥ずかしさがあったようですが、日頃からボランティア活動に従事しているインターアクター達でするので常に前向きな明るい声が飛び交い、活気のある交流の場になっていました。

ホスト校である創学館高等学校インターアクトクラブの高橋虹光会長は「自分を好きになることで、他者への愛や奉仕精神がより豊かになって欲しい」という思いでこの大会を準備してきたと話してくれました。これは年度初めに伊藤三之ガバナーからお話のあった今年度のロータリーのテーマであるメンタルヘルスとも合致していると思います。講演の最後にはオードリー・ヘプバーンが晩年に話した「シワの一つでさえ年齢や経験、知恵の象徴として自分を培ってきた美しさである」というお話もございました。今回の年次大会がインターアクターの心の栄養となり、人生のスパイスになってくれたら嬉しく思います。

インターアクターの皆さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 大石田町の最上川物語

尾花沢中央ロータークラブ  
会長 高橋 龍二

5月26日、五月晴れの日到我がクラブ会員による最上川物語が始まった。当初は昨年秋に大石田町を流れる最上川をカヌーで下る計画があったが、クラブ会員が高齢化しておりカヌーは危険だということで断念し、大石田町での清掃作業に変更された。大石田町在住の会員2名、尾花沢市在住会員5名の精鋭たちである。我々が実施する前の5月初旬に大石田町内全域で河川清掃ボランティアが行われており、意気込んで草むらに入ったものの実にきれいに整備されていた。拍子抜けとはまさにこのこと。しかし、およそ1時間最上川の河原で清掃作業を行ったのであった。しかし、本当の最上川物語はここからであった。

大石田は最上川三難所(基点・三河瀬・隼)の下流にあり、陸路と水路の接点という立地から「大石田河岸」と呼ばれ、最上川舟運の最大の船着き場として栄えたところである。現在、当時の舟運文化を偲ばせる特殊堤防が造られ、町民や観光客の散策路として楽しまれている。

早々に清掃作業を切り上げ、大石田町在住の2名の会員から堤防沿いに現地観光案内をしてもらい、往時の大石田に思いをはせた。2人に地元のお話を聞いて、普段目にはしている場所に実は深い歴史があることを改めて認識できた貴重な時間となった。大石田は「そば街道」でも有名である。お昼は参加した全員で大石田のそばを堪能していったん散会し、夕方からは改めて「反省会」と称し、再度にぎやかな会合となった、実に忙しくそして楽しい1日であった。



## 米沢ローターアクトクラブ 50周年記念祝賀会

米沢ロータークラブ  
会長 喜連 剛

米沢ローターアクトクラブは、2022-2023年度にクラブ発足50周年を迎えていたのですが、会員数の減少に伴い、50周年を迎えた年度内での周年事業の開催ができずじまいとなっていました。その次の年度である2023-2024年度、提唱ロータークラブの会長に周年事業について相談した際に、「ホテルを借りての式典ではなく、野外の食事会のような形でやってみてはどうか」とアドバイスをいただき、2024年6月29日(土)米沢市の松川河川敷にて、屋外での食事会のような形式で「50周年祝賀会」を開催しました。

当日は、伊藤ガバナー、芳賀ガバナーエレクト、安孫子パストガバナー、矢口パストガバナーを始めとした地区内のロータリアン、提唱クラブの会長・幹事、地区内ローターアクトクラブ、総勢20名にご登録・ご参加いただきました。当日は天候の心配もありましたが、良好な天気でも絶好な開催日和となりました。祝賀会の内容として、米沢ローターアクトクラブの2013年度から2022年度までの活動報告、オードブル、芋煮、お酒、かき氷など食事をしながらの交流会、ビンゴ大会を行いました。

クラブ会員数が4人という少数精鋭の中で、ホテルなど大きな会場を借りての式典という形ではなかったのですが、低予算で参加者同士がざっくばらんに歓談でき当クラブのこれまでの軌跡を語り合える場を設けることができました。今回の祝賀会開催につき提唱クラブの皆様準備からお手伝いいただき、無事開催に至ることができたこと、ご参加いただいたロータリアンに満足していただくことができたことで、2023年度米沢ローターアクトクラブの最高の締めとなりました。



## 新会員紹介

山形西 R C	山形西 R C	山形西 R C	山形西 R C	山形北 R C	山形中央 R C
<b>内山 秀樹</b> (うちやま ひでき)	<b>松本 定重</b> (まつもと さだしげ)	<b>渡辺 亮人</b> (わたなべ あきひと)	<b>長澤 純</b> (ながさわ じゅん)	<b>原田 英樹</b> (はらだ ひでき)	<b>明石 昌樹</b> (あかし まさき)
職 業/ 清水建設㈱ 山形営業所 役 職/ 営業所長 職業分類/ 建設業 生年月日/ 1967年9月26日 入会日/ 2024年5月13日	職 業/ 明治安田生命保険(株) 山形支社 役 職/ 支社長 職業分類/ 生命保険 生年月日/ 1968年8月17日 入会日/ 2024年5月13日	職 業/ 東北電力ネットワーク㈱ 山形電力センター 役 職/ 所長 職業分類/ 電力供給事業 生年月日/ 1971年4月24日 入会日/ 2024年5月13日	職 業/ ㈱フォーラム マルチプレックスシアターズ 役 職/ 代表取締役 職業分類/ 映画劇場 生年月日/ 1977年2月19日 入会日/ 2024年6月3日	職 業/ ソニー生命保険㈱ 役 職/ ライフプランナー 職業分類/ 生命保険業 生年月日/ 1984年3月28日 入会日/ 2024年6月20日	職 業/ 三井住友海上火災保険㈱ 山形支店 役 職/ 支店長 職業分類/ 損害・生命保険 生年月日/ 1973年9月20日 入会日/ 2024年6月4日

### 米山功労クラブ

第 37 回 山形西ロータリークラブ

第 29 回 山形北ロータリークラブ

第 21 回 鶴岡ロータリークラブ

第 7 回 米沢上杉ロータリークラブ

第 4 回 山形東ロータリークラブ

### 米山寄付表彰

メジャードナー

第15回 米山功労者メジャードナー



天童 R C  
矢吹 海慶

第13回 米山功労者メジャードナー



山形西 R C  
武田 元裕

### 米山寄付表彰

第6回 米山功労者マルチブル  鶴岡東 R C 五十嵐 勇	第5回 米山功労者マルチブル  山形北 R C 小野 和行	第5回 米山功労者マルチブル  山形北 R C 水上 進	第3回 米山功労者マルチブル  山形西 R C 小林 廣之	第2回 米山功労者マルチブル  山形北 R C 小山 裕久
第2回 米山功労者マルチブル  大江 R C 小國 利宏	第2回 米山功労者マルチブル  山形北 R C 富塚 充	第2回 米山功労者マルチブル  長井 R C 齋藤 慎治	第1回 米山功労者  米沢 R C 遠藤 英明	

### ロータリー財団寄付表彰

PHF+7  山形北 R C 黒井 重治	PHF+6  河北 R C 鈴木 明朝	PHF+4  鶴岡 R C 富樫 松夫	PHF+4  米沢中央 R C 佐藤 清一	PHF+3  山形西 R C 長澤 裕二
PHF+2  天童東 R C 佐藤 豊	PHF+1  余目 R C 秋葉 正一	PHF+1  酒田スワン R C 広瀬 明	PHF  山形北 R C 小山 裕久	PHF  長井 R C 土屋 茂樹

## 2023-2024年度 会員数・年間例会出席報告 (2024年6月現在)

グループ	No	クラブ名	2023.7.1		2024.1.1		2024.6.30		年間出席率	年度始めからの増減数			
			会員数 (女性会員数)		会員数 (女性会員数)		会員数 (女性会員数)			増 (女性会員数)		減 (女性会員数)	
第1グループ	1	酒田	17	(1)	17	(1)	16	(1)	66.11	0	(0)	1	(0)
	2	酒田東	29	(4)	29	(4)	25	(4)	91.16	5	(0)	7	(0)
	3	酒田中央	39	(0)	41	(0)	39	(0)	75.54	2	(0)	2	(0)
	4	酒田スワン	14	(5)	16	(6)	17	(6)	84.17	3	(1)	0	(0)
	5	酒田湊	8	(0)	8	(0)	6	(0)	100.00	0	(0)	2	(0)
第2グループ	6	鶴岡	23	(5)	23	(5)	17	(3)	68.08	0	(0)	6	(2)
	7	鶴岡西	29	(4)	32	(4)	32	(5)	72.99	4	(1)	1	(0)
	8	余目	38	(1)	40	(1)	39	(1)	78.30	2	(0)	1	(0)
	9	鶴岡東	24	(3)	24	(3)	23	(3)	78.77	2	(0)	3	(0)
	10	鶴岡南	24	(3)	23	(3)	21	(3)	71.73	0	(0)	3	(0)
第3グループ	11	天童	40	(3)	42	(3)	42	(3)	92.02	5	(0)	2	(0)
	12	東根	36	(1)	35	(1)	35	(1)	61.17	1	(0)	2	(0)
	13	天童東	52	(2)	53	(2)	51	(2)	78.40	3	(0)	4	(0)
	14	天童西	14	(3)	14	(3)	14	(3)	77.31	1	(0)	1	(0)
	15	東根中央	50	(4)	50	(4)	50	(4)	64.00	2	(0)	2	(0)
	16	村山	7	(0)	7	(0)	7	(0)	100.00	0	(0)	0	(0)
	17	新庄	10	(0)	12	(0)	11	(0)	77.73	2	(0)	1	(0)
	18	尾花沢	14	(0)	13	(0)	10	(0)	89.01	0	(0)	4	(0)
	19	最上	17	(2)	16	(2)	16	(2)	63.54	1	(0)	2	(0)
	20	尾花沢中央	14	(1)	14	(1)	14	(1)	72.73	0	(0)	0	(0)
	21	村山ローズ	11	(4)	12	(4)	13	(4)	75.51	2	(0)	0	(0)
	22	新庄あじさい	17	(0)	19	(0)	19	(0)	88.90	3	(0)	0	(0)
第4グループ	23	寒河江	42	(2)	43	(2)	42	(2)	79.39	2	(0)	2	(0)
	24	大江	15	(1)	15	(1)	16	(1)	97.69	1	(0)	0	(0)
	25	河北	25	(0)	27	(0)	25	(0)	85.50	2	(0)	2	(0)
	26	寒河江さくらんぼ	38	(4)	38	(4)	36	(3)	84.44	0	(0)	2	(1)
	27	西川月山	15	(0)	17	(0)	16	(0)	77.00	4	(0)	3	(0)
第5グループ	28	山形	84	(1)	87	(1)	86	(1)	93.46	10	(0)	8	(0)
	29	山形北	77	(4)	82	(5)	84	(5)	85.05	8	(1)	1	(0)
	30	山辺	25	(1)	26	(1)	25	(1)	85.76	3	(0)	3	(0)
	31	山形南	48	(1)	48	(1)	46	(1)	84.02	4	(0)	6	(0)
	32	中山	11	(0)	11	(0)	12	(0)	80.29	1	(0)	0	(0)
	33	山形西	102	(0)	101	(0)	103	(0)	93.56	7	(0)	6	(0)
	34	上山	15	(2)	15	(2)	14	(2)	80.76	0	(0)	1	(0)
	35	山形東	30	(2)	28	(1)	27	(1)	95.99	0	(0)	3	(1)
	36	山形中央	35	(6)	36	(6)	34	(5)	99.55	3	(0)	4	(1)
	37	山形イブニング	19	(0)	22	(0)	23	(0)	72.11	5	(0)	1	(0)
第6グループ	38	米沢	48	(5)	48	(5)	49	(5)	68.66	7	(0)	4	(0)
	39	米沢上杉	68	(3)	66	(3)	65	(3)	89.73	4	(0)	7	(0)
	40	高畠	44	(2)	45	(2)	46	(2)	72.02	6	(0)	1	(0)
	41	米沢中央	38	(6)	40	(6)	38	(6)	97.36	5	(0)	5	(0)
	42	米沢おしょうしな	29	(4)	30	(4)	30	(4)	55.88	1	(0)	0	(0)
	43	長井	25	(0)	25	(0)	25	(0)	83.07	2	(0)	2	(0)
	44	南陽	8	(0)	7	(0)	6	(0)	89.26	0	(0)	2	(0)
	45	白鷹	20	(2)	20	(3)	20	(3)	100.00	1	(1)	1	(0)
	46	小国	12	(0)	12	(0)	12	(0)	100.00	0	(0)	0	(0)
	47	南陽東	28	(2)	28	(2)	27	(2)	81.49	0	(0)	1	(0)
	48	長井中央	17	(0)	17	(0)	17	(0)	73.48	1	(0)	0	(0)
	49	南陽臨雲	28	(4)	27	(3)	27	(3)	66.67	0	(0)	1	(1)
合計			1473	(98)	1501	(99)	1468	(96)	81.62	115	(4)	110	(6)

## それぞれの最上川物語

国際ロータリー第2800地区の対象エリアは、山形県全域です。

山形県の母なる川、最上川。

一つの都府県内で完結する河川としては日本一の長さ（229キロ）を誇ります。

米沢の西吾妻山を水源とし、県内の数多くの市町村内を流れ、

酒田の日本海にそそぎ込みます。

私たちの地区の第1グループから第6グループの全てを網羅しているのです。

ふるさとの母なる川、最上川。いにしえより恵みを運ぶ大動脈。

未来に豊かで美しい最上川を引き継いでいくために、

私たちは、最上川をステージにして、

ロータリー奉仕デーの清掃事業を行いました。

「街中（まちなか）や河川敷、海岸でゴミを拾ってきれいになるのは、

街や川や海ばかりではない。一番きれいになるのは自分の心である」、

つまり、利他の心にもとづく行動こそが自分の幸せにつながる、

自分の人生を豊かにする道である、

「それぞれの最上川物語」の事業を通じてそのことを実感させていただきました。

